

## 4章 幕藩体制の時代

### 1 関ヶ原の戦い

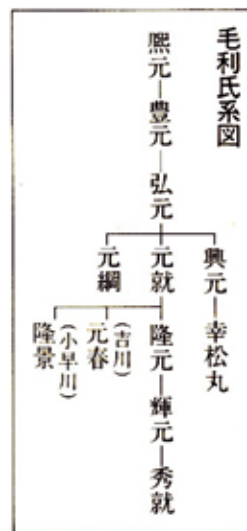
#### ● 関ヶ原の戦いの結果、毛利氏はどうなったのでしょうか？



毛利氏は、石田三成の西軍につきました。天下分け目の戦いと呼ばれる合戦でした。その結果、毛利氏は敗れてしまうことになります。

1600年に徳川家康（東軍）と豊臣秀吉の遺志を継ぐ石田三成（西軍）による対立が激しくなり、関ヶ原の戦いとなりました。石田三成は、仲間の進言に従って、当時家康と同じくらいの実力を持っていた毛利輝元（元就の孫）を西軍の総大将とするように策略します。毛利輝元は、総大将に就任し、一族の毛利秀元と吉川広家を出陣させました。輝元は、大坂城に入りました。

関ヶ原の戦いになると西軍の小早川秀秋による裏切りや吉川広家などの東軍への内通などもあり、東軍の勝利に終わりました。関ヶ原の戦いのあと、毛利輝元は、剃髪して、毛利家を毛利秀就に譲りました。



小学校、中学校の教科書で必ず出てくるね！  
毛利氏は西軍だったのですね。

### 2 徳川政権と安芸高田

#### ● 関ヶ原の戦いで、家康に負けてしまった安芸を支配していた毛利氏はどうなったのでしょうか？



「関ヶ原の戦いには参加しなかったものの毛利輝元は西軍の総大将であったため、徳川家康により毛利氏は領地を大幅に削られて周防・長門（山口県）に移りました。輝元は広島城を出て、新たに萩城を築き本拠地としました。そして、毛利氏は家康による大阪夏の陣・冬の陣での出費などもかさみ、江戸時代苦しい藩の運営をせまられることになりました。江戸時代毛利氏のあとに安芸国に入った福島氏が検地を行なうことになりました。高田郡内を59の村の境界を定めて、年貢や様々な労役などを負担し、法令などを伝達する仕組みを整えました。

しかし、1619（元和5）年、福島氏のあとに浅野氏が入りましたが、浅野氏は福島

氏の制度を受け継ぎ、福島氏から 264 年の長期にわたる江戸時代の支配体制を続けました。

毛利氏支配の中心となっていた郡山城は、毛利氏の本拠地が広島城へ移った後も引き続き使われていましたが、江戸時代に入るとその役目を終えました。

### 3 近世農民の生活



#### ●江戸時代の農民の暮らしはどのようなものだったのでしょうか？

江戸時代には、検地により村境もはっきりし、さらに村々での生活も農業を中心に盛んになりました。また、現在に通じる地名も見られるようになりました。

江戸時代以前から、稲作を中心とする農業がさかんであった安芸高田は、中世以前からたたら製鉄の産地でした。江戸時代では、北部の川根村（高宮町）、北村・桑田村・生田村（美土里町）などで小規模に行われていました。

農家では、米・麦作を主体にしていましたが、1825（文政8）年に刊行された『芸藩通志』では、かぶら、ごぼう、かたくり、松茸などの農産物や、鮎、かわすずき、ひらめなどの川魚、麻や綿、菜種、干し柿、たばこなどの様々な商品作物などが記されています。これらのうち、たばこや麻は、ひろく流通したと言われています。

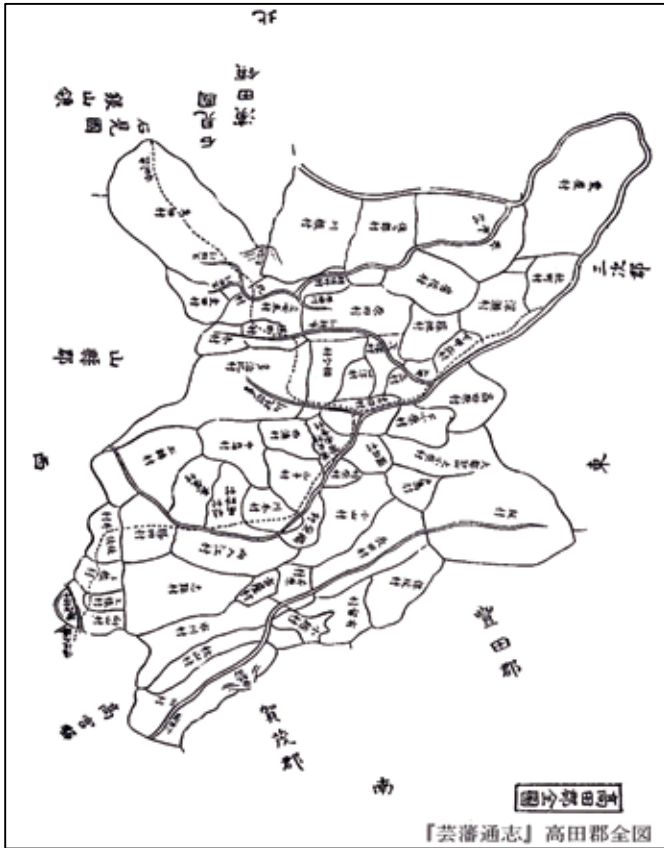
江戸時代の農民の生活を理解するのに重要な史料が吉田町でみつけられました。安芸高田市の重要文化財にも指定されている『家業考』といわれる庄屋さんの記録です。吉田町多治比の豪農が家訓とするために、一年間の農作業を日記のように記録したもので、明和年間とされており、江戸時代中期の人々の生活を理解するのに役立ちます。豪農といえども、つつましやかな生活ぶりで、それを子孫に継承するように教えています。

当時の農民の多くは、生活物資を自給自足しており、米・麦だけではなく、茶の木や紙と交換するための楮（こうぞ）、衣類用の麻や綿、灯火用の菜種など、必要なものは必要な量だけを育てて確保したようです。

『家業考』から当時の生活を垣間見ることができます。

- 1 農事の暦
- 2 勝手何角心得の事  
（「みそ調ようの事」などしょうゆ、酢などの作り方等が書いてある秘伝書）
- 3 年中勝手心得のこと
- 4 葬式心得

詳細は、安芸高田市歴史民俗博物館で見ることができます。



現在につながる人々の工夫がありますね！ほかにも古くから伝わるものは何があるかな？



↑ いけだかぢやこ 生田金屋子神社

← 「芸藩通志」高田郡全図  
(「江戸時代の安芸高田」安芸高田市歴史民俗博物館)

## 4 農村文化の発展

### ●江戸時代の文化はどのようなものが発展していったのでしょうか？



町人や百姓による文化も栄えた様子です。神楽やだんじりなど現在に受け継がれているものも多くあります。また、現在の人々の信仰に結びつくものもありました。

まず、人々の信仰についてみてみましょう。戦国時代に、毛利氏の中心地であった吉田や市内の毛利氏や家臣の所領地に、それぞれの氏神・祈願所としての神社や菩提寺などとして多くの社寺が建てられました。江戸時代に入ると、残された神社は、地元の村々の氏神社となったり、新たに造られたりしたものも含めて、地域で維持されました。たいていの神社では絵馬が奉納され地域の人たちから信仰が厚かったことがわかります。また、美土里町などの神社では、石見・大元神楽の流れをくむ芸北神楽（高田神楽ともいう）が、江戸時代後期ごろから盛んに舞われはじめたといわれています。



↑ 高田神楽

仏教では、浄土真宗が特に盛んで「安芸門徒」と呼ばれる地域のひとつです。1723年には、49箇所寺がありました。そのほとんどの寺院が続いています。

現在は、他の宗教も盛んになってきています。このほか、当時は集落ごとに、観音堂や薬師堂などの小堂も数多く建立されています。

江戸時代に松尾芭蕉が確立して、大流行させた俳諧も安芸高田に広まりました。1745年、甲田町の男山神社に奉納された俳諧額には、上甲立の人々と、芭蕉の門人から学んでいた広島で活躍していた俳人の名前があります。文化・文政のころには、吉田を中心に俳句集が印刷・出版されています。

その吉田を中心に、1820年町年寄・町役人・商人・職人などから100人（現存しているのは95人分）がそれぞれ一句詠んだ「吉田百人一首」が作られました。その下に作者の職業・趣味などが描かれており、当時の職業・服装などをうかがい知ることができます。ただ、「吉田百人一首」が出版にいたったかどうかは、まだわかりません。



「吉田百人一首」写本  
(安芸高田市歴史民俗博物館)

百人一首の文化も古くからあったんだね。左の写真は、仙溪がつくった歌みたいだね。

「虫なくや 焚火の  
見ゆる 戸のひづみ」



## <コラム>

### 上田南亭(うへだなんてい)の話

1770年吉田町胡町に生まれた俳人。紺屋(染物屋)を営んでいる家庭に生まれました。一家で俳諧に興味を持ち、広い地域に交友を持ったといわれています。広島での俳諧のなかでも、相当の地位にあり、「郡山集」などたくさんの俳句誌に自らの俳句を載せています。

吉田町組頭もつとめて、「芸藩通志」編集のために調査をしました。1835年6月6日、66歳で亡くなりました。

### <代表句>

馬ぼくぼく人物いはず夜の雪　でどむしよ麦わら上で囃さうか

## <コラム>

### だんじり屋台の話

郡山のふもとにある清神社の春の祭礼日にあわせて、寛文年間（1661～72）に吉田で牛馬市が開かれました。この市が始まる日を「市入」と言ったので、この春の祭礼を「市入り祭」と呼ばれ、近郊のみならず島根まで知られた大きな祭りでした。現在は、毎年5月5日に行なわれます。その祭礼で神輿行列のお供としてだんじり屋台が出され、この上で子供歌舞伎が演じられてきました。

1674（延宝2）年に吉田の豪商河野与三郎が京都祇園祭をまねて始めたと言われていいます。江戸時代には5台も出ていただんじりは、現在は2台になっています。

**毎年ニュースに出ているね！長くから続いているんだね。地元吉田中学校の生徒が演じているよ。屋台の上で歌舞伎を演じるのは広島県ではここだけみたいだよ！**



子供歌舞伎



だんじり屋台  
（安芸高田市歴史民俗博物館）

## 5 幕末と安芸高田

### ●幕末と安芸高田のかかわりはどうだったのでしょうか？



幕末の安芸高田の詳細な様子は不明なところも多いです。しかし、江戸幕府の滅亡にいたるところ、政治的にも思想的にも影響を受けたとする様子が見えます。

江戸時代の中頃から、幕府による改革がなされます。享保の大飢饉では高田郡内でも多くの餓死者が出たと言われています。1780年頃には、各村に社倉（穀物倉庫）ができました。

1853年浦賀にペリーがくるころ、漢詩に優れた頼山陽<sup>らいさんよう</sup>が毛利元就の墓所に参拝し、漢詩を詠んでいます。頼山陽は、尊王攘夷論<sup>そんのうじょうい</sup>につながる歴史書も記した人物で、幕末に大きな影響を与えたとされています。また、吉田には江戸時代を通じて多くの長州藩士が毛利元就の墓参りに訪れました。長州藩主は毛利氏だったため、特に江戸時代の終わりには頻繁に行われ、吉田と長州藩の繋がりは深いものになっていました。

下の絵馬は、美土里町生田にある川角山神社にあった「黒船」を描いたものです。かわら版を原図として書写されたこの絵馬が神社に奉納されたのはペリー来航の2年後で、事件の大きさが安芸高田まで広まったことの証拠の一つです。

ペリー来航により日本中が幕末の動乱の最中にあった1862年、広島藩は江戸に屋敷を構えていた分家浅野長厚を広島に帰国させます。そして翌年9月から郡山城跡の南麓(現吉田高校)に長厚の屋敷「御本館」の建設が始まり、1864年に完成します。これは初め外国船から広島城が攻撃された際に避難するためでしたが、実際には政治情勢が不安定であった藩内北部の支配拠点となりました。郡山周辺には家臣の屋敷も建てられ、宿場町であった吉田は突如その城下町へと変貌します。しかし、この屋敷も明治をおかえわずから年足らずで廃止されました。



↑ 絵馬・蒸気船図 (美土里町川角山神社蔵)

御本館と吉田高校は、幕末に関係していたね。

幕末の出来事と照らしあわせて読むと、わたしたちの身近なところとつながっているね。調べてみよう。歴史を深く学べるよ！



## <コラム>

### 御本館 (御住館)

広島藩主浅野氏によって築かれ、1864年5月に完成した大名屋敷。約3,000坪の広大な敷地に、堀と塀に囲まれた浅野長厚が暮らした屋敷や学問をおこなう講学所、更には軍事訓練をおこなう場所もありました。さらに周辺には200人近い家臣達の屋敷も数多く建てられました。建設にあたっては、高田郡内の有力者が土地の取得や資材の調達にあたり、郡内の大工50名が総動員された突貫工事でした。その跡地が現在の吉田高校です。

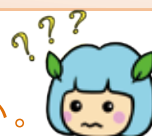


御住館図(安芸高田市歴史民俗博物館提供)

## 第5章 近代の進展と安芸高田

### 1 廃藩置県と武一騒動

#### ● 廃藩置県を人々はどのように受け取ったのでしょうか。



いよいよ  
明治だよ

1871（明治4）年7月14日、廃藩置県の命が出され、広島藩は広島県となり、広島藩知事<sup>あきのながこと</sup>浅野長勲は免職になり、東京への移住を命ぜられました。8月4日、前藩主の浅野長訓<sup>ながみち</sup>とその家族が東京移住のため広島を出発しようとした。しかし、広島城の周辺を城下や近郡の多くの民衆が取り囲み、別れを惜しんで上京を阻止しようとして行動に移したのです。このため、出発は中止となり、これから10月初めまで、旧広島藩領内16郡に及ぶ民衆の騒動が起きました。

#### ● 騒動はどのように展開していったのでしょうか。



8月9日、山県郡で周辺の民衆を集めて県庁派遣の役人が説得にあたっていると、民衆が襲撃して重傷を負う暴動が発生しました。11日、多くの郡から広島城下に集まった群衆から、浅野長勲が引き続き県政を担当することを願う嘆願書<sup>たんがんしょ</sup>が出されました。この嘆願書は山県郡有田村の武一（武一郎）が起草したと伝えられ、武一が騒動の首謀者<sup>しゅぼうしゃ</sup>とみなされたため、後にこの騒動は「武一騒動」と呼ばれるようになりました。同日、山県郡では割庄屋<sup>わりじょうや</sup>(<sup>1</sup>)宅が打ちこわされ、翌12日には広島城下でも暴動が発生し、騒動は激化していきました。

以降、世羅郡・賀茂郡<sup>かもち</sup>一帯へ拡大し、14日には三次・恵蘇<sup>えそ</sup>・三上<sup>みかみ</sup>・奴可<sup>ぬか</sup>などの県北部に、16日御調<sup>みつき</sup>・甲奴<sup>こうぬ</sup>などの県東部に拡がりました。

高田郡では、北本村・横田村（美土里町）の農民がまず立ち上がり、川根村（高宮町）・長屋村・桂村（吉田町）・深瀬村（甲田町）・長田村（向原町）などで、割庄屋宅などが襲撃されました。

そのようすは、長田村では有力農民宅の母屋<sup>おもや</sup>や駄屋<sup>だや</sup>に縄をかけ引き倒したと、下甲立村（甲田町）では、住宅の柱や敷居<sup>しきい</sup>・鴨居<sup>かもい</sup>などへ斧を打ち込み、建具を残らず打ち砕き<sup>くだ</sup>、酒30石あまりを引き抜きこぼしたとあるように大変激しいものだったといわれています。

その後、県側は鎮撫隊<sup>ちんぶたい</sup>の派遣によって鎮圧につとめ、9月上旬以降騒動は沈静化に向かい、参加者の処分が行われました。騒動の逮捕者は578人にも及び、そのうち武一をはじめ主だった9人は、11月4日即決処置され、死刑となりました。そして、武一は妻の実家近く（八千代町勝田）に埋葬<sup>まいそう</sup>されました。

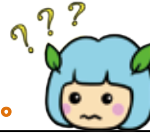


↑ 武一判決書（明治4年）



↑ 武一の墓（八千代町勝田）

### ●この騒動の背景には何があったのでしょうか。



この一揆（騒動）は、旧藩主を引き留める要求が発端になって起こったものでしたが、運動が暴動化して県内全域に拡大した背景には次のようなことが考えられています。

（1）旧藩主引き留めの要求と行動には、旧藩主との別れを惜しむという素朴な心情のほかに、一方的な上京に対してこれまでの慣行が破られるのではないかという気持ちが強くあったこと。（2）明治新政府から次々と出される政策に疑惑や反発をもっていたこと。（3）商品経済<sup>(2)</sup>がすすんでいくなかで貧富の差が大きくなり、新政府の権力とつながっている役人としてみられた割庄屋や庄屋などの村役人層に対する疑惑が充ちていたことなどがあげられています。

また、この頃農村がかかえていた状況として、1869（明治2）年から翌年にかけての全国的な大飢饉<sup>(3)</sup>があげられます。広島藩内でも夏に大雨が続き、単衣1枚ではしのぎかねる冷温であったといえます。そのため秋の収穫は、半作以下か皆無に近い地域が多かったといわれています。1870（明治3）年の年貢米は、同年末まで高田郡内14か村が未納のため、その村々の庄屋は広島へ呼び出され、厳しい催促を受けており、そこで庄屋の多くは、私物の米まで出して割り当てを済ませたといった状態だったのです。

### ●「武一騒動」があたえた影響とは何でしょうか。



この一揆（騒動）は、松山・大洲（伊予）・母里（出雲）・高松・福山・高知などの県にも大きな影響をあたえるとともに、県内で攻撃の対象となった割庄屋・庄屋が、政治や経済活動に消極的になり、地租改正や大区小区制の実施も順調には進むことができなかつたとされています。

多くの人々に  
急激な政治改革  
への不安があっ  
たようだ。



明治新政府の政策が、民衆の生活や心情にどのような影響を与えていたのかを探ってみよう。

\*注 （1）割庄屋 江戸時代の村役人の長で、年貢納入や入会（いりあい）・水利の維持管理など農民一般についての管理・監督を行う。  
（2）商品経済 交換をすすめる目的で物資を生産・販売する経済のしくみ。  
（3）飢饉 長雨・干ばつ・風虫害・冷害などにより農作物が実らず食物が欠乏すること。



## 2 明治の地方行政の成立と安芸高田



### ●廃藩置県の後、地方の制度はどのように変わったのですか。

廃藩置県後、中央集権の方向に向かって古い制度が改革されていくなかで、町村のしくみについては、1871（明治4）年4月の戸籍法の公布をきっかけに改革への歩みが始まりました。戸籍編成のため区を定め、区に戸長・副戸長をおいてその事務を担当させました。その区は一般の行政区画となり、1872（明治5）年の大区小区制(1)の制度によって、戸長・副戸長が庄屋・年寄に変わり、地方行政事務担当者になっていきました。

1878（明治11）年の郡区町村編成法によって、大区を廃止し郡・区（都市部）とし郡区長の管轄下におき、小区を廃止し町村を復活させ、戸長が町村事務の担当者となりました。

その後も1889（明治22）年の市制・町村制の実施によって地方行政の骨格が定まっていきました。安芸高田（旧高田郡）では、1878（明治11）年に吉田村に郡役所がおかれ、1889（明治22）年の町村合併により郡内の59か村が26か村となりました。

郡町名	大区番号	小区の数	郡町名	大区番号	小区の数
広島町	第一	二	御調郡	一〇	一六
沼田郡	二	五	甲奴郡	一一	〇四
安芸郡	三	一	世羅郡	一二	〇四
佐伯郡	四	四	三谿郡	一三	〇六
山陰郡	五	二	奴可郡	一四	〇八
高田郡	六	二	三上郡	一五	〇八
高宮郡	七	八	三次郡	一六	〇九
賀茂郡	八	一	三上郡	一七	〇九
豊田郡	九	三	恵蘇郡	一八	〇九

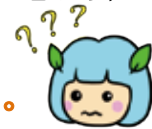
第一小区	第二小区	第三小区	第四小区	第五小区	第六小区	第七小区	第八小区	第九小区	第十小区	第十一小区	第十二小区	
吉田・相倉・山部・匠元・上小原・下小原・高田原	戸島・長田・坂	有留・保須・井原・古座・志路	三田・秋山・小越・市川	土師・佐々井・勝田・上根・下根・向山	長原・桂・宮野・中馬・川本	上入江・下入江・小山・福原・竹原	栗屋・舟木・秋竹・露後・控地	上甲立・下甲立・原田・浅塚・深瀬	常友・西浦・常英寺・多治比・山手	木・濱田・常々部・末次六・羽佐竹	川根・生田・北・桑田	

明治時代からの新しい町づくりの始まりです。現在の地域はどこに所属していたのかな。



↑ 広島県の大小区（『向原町誌』上巻より） ↑ 高田郡小区の範囲（『向原町誌』上巻より）

### ●高田郡吉田町のにぎわいはどのようなものだったのですか。



1896（明治29）年には吉田村は町制に移行されました。吉田町は江戸時代から「吉田千軒」（『芸藩通志』）といわれた中心地であり、山陰山陽の連絡の要衝として栄えていました。「安芸国北第一の市聚（商業地）なり、戸数七百有余あり、商品は米を主とし、産物は麻を主とす」と表現されるほどでした。

\*注 (1) 大区小区制 明治の初めの戸籍・地方行政制度。区は行政区画となり、庄屋の名称を廃止し、旧来の町・村を吸収した。1878年廃止。

また、1900（明治33）年には吉田貯蓄銀行、1906（明治39）年に三次貯蓄銀行吉田支店など、商業経済機能を充実させるには必要不可欠な銀行の進出もみられました。

明治時代の町の特徴は、官庁の出先機関が置かれるという行政的な機能が加わっていくものでした。その行政的な機能とは、警察署、税務署、法務局、営林署、郵便局などが果たしていく機能のことを示していました。



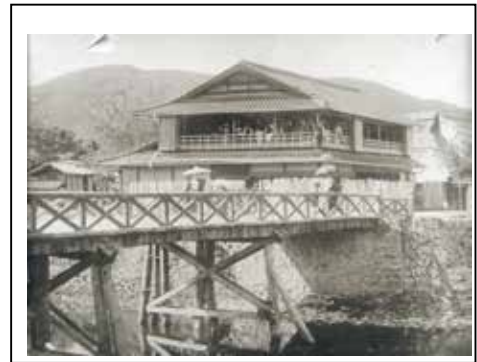
↑ 吉田の町の様子（大正時代か）

### ●吉田以外にもにぎわった地はあったのですか。



旧高田郡内には、要地として「市」と名づける商業地がありました。甲立や生田が代表的な例にあげられます。

甲立市（現甲田町）は、宍戸氏260余年の城下として開けて、村内を「雲石路」が通り、郡内吉田に次ぐ市街地で、江戸時代には吉田とともに町年寄を置いた所として栄えました。五龍城跡より高宮方面への街並みを向小路といい、かつて武家屋敷もあった所でした。



↑ 甲立市の様子（五龍城付近）

生田市（現美土里町）は、江戸時代には「石見路」（石州往来道）屈指の市場町として栄え、番所（藩が通行者や荷物などの検査や税の徴収を行なった所）もありました。この地に入ってくる行商人は生田に宿をとる者が多く、石州（島根県）から、また石州への旅をする者は必ずここで休憩し、秋の取り入れが終了すると1週間ほど地方回りの芝居が開演されていました。昭和初期まで行われていた石州出羽の牛市期間は、毎日のように牛馬商や見物客が途中の休憩所としてここを利用していました。



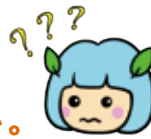
↑ 生田市の様子（昭和初期か）

当時の写真を見ると、町が活気づいていたことがわかります。



地域で昔の様子を残している街並みを探し、その由来を調べてみよう。

### 3 近代学校教育の始まり



#### ●近代学校教育はどのように始まったのですか。

日本の近代学校教育の開始は、1872（明治5）年の学制公布によるものでした。そこでは、学問を立身の基本とし、国民皆学をめざしていました。広島県でも、これを受けて同年11月にどのような山奥の郡村でも学校を設置し、子どもを就学させることをめざしたものでした。学制によると、全国を8つの大学区に、1大学区を32の中学区に、1中学区を210の小学区に分け、それぞれ大学、中学、小学校を設置するものでした。



#### ●高田郡ではどのように開始したのですか。

広島県は第4大学区に属し、高田郡は山県・高宮郡とともに第4中学区に属し、本部を吉田においていました。中学区の中の小学校の設立は1873（明治6）年から始まりました。当時高田郡の小学校は54校ありました。



#### ●明治当時の学校はどのような様子だったのですか。

小学教の教科については、読書、習字、算術、地理、歴史、修身<sup>(1)</sup>の初歩が定められ、地域の状況によって唱歌、体操等を加え、また、物理、生理、博物等の大まかな学習が加えられていました。特に、女子に対しては裁縫等の教科を設けていました。

1991（明治24）年当時の尋常小学校4年生の教科を例とすると、次のようになっています。修身（週3時間）、読書・作文（易しい漢字交り文と日用の書類 週10時間）、習字（日用文字と日用書類 週5時間）、算術（万以下の数の範囲内の加減乗除 週6時間）、体操（普通体操、兵式体操 週3時間）

1886（明治19）年4月に小学校令が發布されると、小学校は尋常小学校と高等小学校とに分かれ、それぞれを独立した学校とされました。修業年限は各4か年で、児童6歳より14歳に至る8か年が学齢とされました。

さらに、就学率の向上によって1907（明治40）年3月に、尋常小学校の義務教育の年限は4年から6年に延長となり、翌年4月から実施されました。全国の多くの尋常小学校は、修業の年限を6年に延長し、2年制の高等科を並べて設置し尋常高等小学校と改称しました。これによって、教科数を減らし、必須科に集中させて実生活の必要に応じるようにしていました。

昔から読み書きを中心に基本を学んでいたんだね。



注 (1)修身 学制下の小学校・国民学校などで、道徳教育を行うために設けられていた教科名

↓ 広島県の学区と学区数 (『文部省年報』明治6年) 『広島県史』

中学区番号	郡区名	人口	小学区数
1	広島・沼田	113,274人	188
2	安芸	118,750	206
3	佐伯	99,142	173
4	山県・高田・高宮	148,361	233
5	賀茂	101,817	166
6	豊田	103,089	173
7	御調・甲奴・世羅	151,149	233
8	三谿・奴可・三上・三次・恵蘇	106,396	172
計		941,978	1,544

明治7、8年の公立小学校数

明治14年度郡区別就学率

(『文部省年報』) 『広島県史』 ↓

(『広島県学事年報』明治14年) 『広島県史』 ↓

学区	郡区名	明治7年	明治8年
第4中学区	山県	15	80
	高田	54	57
	高宮	33	33
小計		102	170

郡区名	就学率	男子就学率	女子就学率
山県	38.38%	58.43%	15.70%
高田	35.00%	52.78%	15.65%
高宮	38.66%	60.07%	15.37%
県平均	37.04%	53.89%	18.63%



↑ 高田原尋常小学校 (明治29年9月9日)



↑ 来原尋常小学校 (大正8年3月12日)



← 相合尋常小学校卒業写真 (明治44年3月)

明治時代の児童・生徒は、どのような1日を過ごしていたのかを調べてみよう。

なつかしさを感じさせる校舎の写真ばかりです。



## 4 日清・日露戦争の頃の安芸高田



### ●明治時代に入っての広島での軍の体制はどうなっていましたか。

1873（明治6）年に広島に鎮台<sup>(1)</sup>が置かれ、1886（明治19）年には第五師団と改められました。その後、1890（明治23）年広島に憲兵隊<sup>(2)</sup>が置かれ、広島県下を六管区に区画し、郡市にその分屯所<sup>(ぶんとんしょ)</sup>が置かれました。高田郡吉田村には広島憲兵第二管区吉田村屯所<sup>けんべい とんしょ</sup>が置かれました。

### ●日清戦争

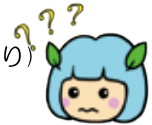


日清・日露の戦争では安芸高田の人々はどうしていたの  
だろう？

郷土部隊は、1894（明治27）年6月5日に動員命令が下り、9日に宇品を出発し、仁川に上陸し転戦しました。郷土部隊は、1895（明治28）年6・7月に復員しました。しかし、高田郡出身の戦死者は25名を数えました。

←日本軍の進路

（『体系日本の歴史 13 近代日本の出発』より）



### ●日露戦争では郷土部隊の動きや地元ではどのような様子でしたか。

1904（明治37）年2月10日、日露戦争が始まりました。（当時、日露戦争は年号から「明治三十七八年戦役」と呼ばれていました。）郷土部隊に対して4月19日に動員命令が下されると、満州に渡り、各地に転戦しました。1905（明治38）年奉天<sup>フンティエン</sup>での戦いに参戦し、3月奉天は開城しました。9月に休戦、条約協定が結ばれ、戦争は終結しました。この戦争での高田郡出身の戦死者は145名に及びました。

その間、兵士を出した地元では、出征軍人へ慰問袋<sup>(3)</sup>や地元新聞を届ける活動が行われ、また、留守家族に対しては慰安会<sup>いあんかい</sup>を催し、農作業の手伝いをしました。その上、戦意高揚のための講話<sup>こうぎょう</sup>が各地で行われたため、奉天<sup>フンティエン</sup>や旅順<sup>リュウシュン</sup>での勝利が伝えられた日の夜間には祝灯<sup>しゅくとう</sup>を出し、提灯行列<sup>ちようちん</sup>などの祝意行事が催されました。

注 (1)鎮台 明治初期の陸軍の軍団 (2)憲兵隊 軍事警察官の組織  
(3)慰問袋 戦地の兵士などを慰問するために、日用品、娯楽用品などを入れて送る袋



## ●日露戦争時、各村ではどのような動きがあったのでしょうか。

戦時体制の下では、国や県の指令によって動いたものが多く、安芸高田の旧各村でも同様の活動がされていました。生桑村（現美土里町）の資料によると、次のような動きがなされていました。

- (1) 政府が、1904（明治37）年に1億円の国債を募集したため、高田郡において、国債の募集とともに、節約し貯蓄に励むようにすすめられていました。
- (2) 各組長を集めて、組内で節約をすすめる勤儉法きんけんほうとよばれる規則や軍人の留守家族を救う目的の会をつくっていました。
- (3) 村長をはじめとして戦地にいる軍人に対し、時期を考え慰問文いもんぶんを送っていました。
- (4) 新聞も当時のごく限られた家だけが購読していたにすぎませんでした。戦況や内外の情報を村民に知らせるため、村長・僧侶・神官等が陣頭に立ち、時には外から講師を迎えて講演会を開くなどして、村役場に入った情報を文書にして各組に伝え、組長を通じて全戸に知らせる手段がとられていました。

日清・日露戦争について、直接に経験を語る方はもういません。しかし、近代とよばれる時代に入ってから、郷土から多くの方が出征され、亡くなられ、傷害を負われていました。今でも安芸高田市の各地に「鎮魂碑ちんこんひ」として私たちが生活する近くの場に示されています。



↑ 日清・北清事変・日露戦役記念碑（甲田町小田）

安芸高田市も戦争との関わりがあったんだ。



↑ 日露戦争の出征軍人（明治37年頃）

日清・日露戦争が地域に与えた影響について、自分の言葉でまとめてみよう。

## 5 大正時代 芸備鉄道開通に伴う変化



### ● どうして高田郡に鉄道が開通することになったのですか。

1888（明治21）年山陽鉄道会社が設立し，1894（明治27）年6月兵庫—広島まで開通しました。この開通によって，沿線の市町村だけではなく，瀬戸内沿岸と県北を結ぼうと鉄道建設を願う声が各地であがっていました。1910（明治43）年三次と広島きこうの資本によって芸備鉄道株式会社が設立されました。1913（大正2）年に起工し，1915（大正4）年6月に広島—三次間が開通しました。

芸備鉄道は，当時としては異例の長距離鉄道で，県北における諸貨物の集散地で，島根に通じる重要地として位置する三次とのつながりを強く意識した鉄道でした。翌年，この芸備鉄道は国鉄線広島駅の線路と接続されました。

芸備線の由来について調べてみよう。



### ● 開通当初の停車場や運賃はどうなっていましたか。



わずか3年間でトンネル11，橋40もの難工事を完成し，65.6kmの全線営業が開始しました。当初の停車場は，東広島（矢賀）・矢口・下深川・狩留家・中三田なかもた・志和口・井原市・向井原（向原）よしだぐち・吉田口・甲立・川立・志和地・三次の13駅，1日4往復で片道3時間7分もかかりました。

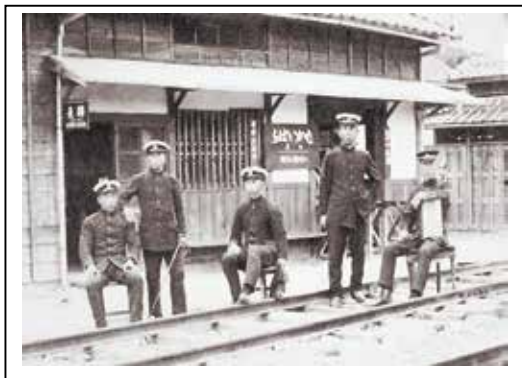
旅客運賃は，3等で東広島（矢賀）から向井原（向原）まで65銭<sup>(1)</sup>，甲立79銭，三次101銭，向井原から吉田口11銭，甲立16銭，三次38銭でした。

### ● なぜ，現在のような路線になったのでしょうか。

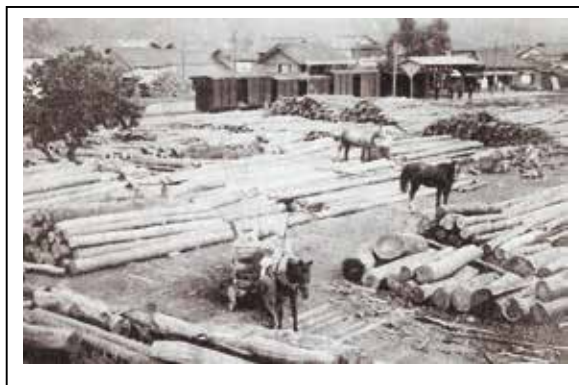


芸備鉄道の路線が江戸時代以来の県北への主要ルートである出雲街道いずもかいどう（現国道54号）を避け，中筋道なかすじどう（現県道37号）を選んだのは，急で険しい上根峠かみねとうげ（広島市と八千代町の境）を越える技術が不十分であったからといわれています。しかし，出雲街道沿いでは鉄道交通から取り残されまいと，1913（大正2）年「芸備鉄道路線変更期成同盟会」をつくり，井原—志屋—入江—福原—吉田—小田村を通過し，入江・吉田に停車場を設置するよう運動を進めました。しかし，この希望は受け入れられず，結局，小原駅おぼら（甲田町）を吉田口駅の駅名とすることとし，駅の敷地は町民が寄付し，さらに将来，吉田町への支線を敷くことに備ええきしゃ，駅舎の位置はあらかじめ下小原しもおぼらの三差路さんさるの西南方に位置させることを条件にして決着しました。

注 (1)銭 明治から昭和初期の通貨の単位。円の100分の1。



↑ 向原駅の様子（大正4年8月）



↑ 甲立駅の様子（昭和8年）

●この芸備鉄道の開通によって、県北や地域にどのような影響があったのでしょうか。

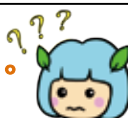


鉄道による輸送量の飛躍的な増加で、明治以来の輸送手段であった荷車・馬車・人力車などを減少させることになりました。（荷物用自動車が大きなた重を占めるようになるのは昭和期以後でした。）

その後、第一次世界大戦中の経済発展は、鉄道輸送のみならず、道路輸送の重要性が考えられ、バス交通の発達を促すこととなりました。

芸備鉄道はさらに北へ延び、1923（大正12）年には庄原まで開通しました。やがて岡山県の新見から西へ延びてきた三神線と結ばれて国鉄の芸備線になるのは、1937（昭和12）年のことでした。

●芸備鉄道沿線の町並みに変化はありましたか。



向原町坂には、現在JR向原駅の西側に宿場町に似た町並みが残っています。町並みを通る道筋は、現在JR芸備線の東側を通る県道37号広島三次線の旧道にあたり、江戸時代には中筋往来と呼ばれていた道です。

坂は、明治中期までは中世から続く三篠川舟運の河港町として栄えていました。舟運がさかんな頃を中心問屋街は現在の坂の西側に続く長田高大地であって、この宿場町に似た町並みは、明治中期以後の陸路の整備とともに、芸備鉄道の開通によって少しずつ形づけられたとされています。



↑ 向原の町並み（向原町坂）

現在のJR芸備線周辺の町並みと当時の街並みを比べてみよう。



戦争中、人々はどのような暮らしぶりだったのでしょうか。

## 6 日中戦争・太平洋戦争下の安芸高田

### ●昭和時代の初め、安芸高田の農家経済はどのような様子でしたか。



第一次大戦後、農産物価格の下落傾向が続いており、それに加えて1927（昭和2）年に起こった金融恐慌<sup>（1）</sup>の打撃から立ち直っていなかった農村は、1929（昭和4）年には、世界恐慌<sup>（2）</sup>により深刻な影響を受けました。特にアメリカ向けの生糸の輸出が激減して、繭<sup>まゆ</sup>の値段が大暴落し、養蚕農家は大打撃を受けました。

広島県は養蚕県ではありませんが、当時の農家経済の中に占める繭<sup>まゆ</sup>の地位は米、麦に次いで高い状況でした。養蚕が定着していた背景には、行政の指導援助に応じて、単作地の農家が副業の現金収入源として取り組んだことがあげられています。1921（大正10）年には、高田郡では農家の桑園の小規模生産が促され、1922（大正11）年からわずか3年間に養蚕戸数が363戸から1101戸に、繭<sup>まゆ</sup>収入の金額は2.5倍に増えました。しかし、昭和初年の繭<sup>まゆ</sup>価の大暴落は、養蚕業を一挙に衰退させ、地元の製糸業は廃業に追い込まれました。



↑ 繭の生産

### ●日中戦争が始まって以降、戦中時の安芸高田の人々の暮らしはどのような様子だったのでしょうか。



1940（昭和15）年頃から、食糧の事情が厳しくなり、砂糖、みそ、しょうゆなどは配給制度<sup>（2）</sup>になっていきました。特に米は供出の割り当てで米を作りながら米に不自由するようになっていました。1942（昭和17）年頃から、おかゆや、野菜・野草の混ざった雑炊<sup>（3）</sup>などにして切り抜けていました。また、できる限りの土地を多作にする工夫をしていました。裏作の麦は冬に寒い安芸高田の地域では、多くの収穫はなかったものの、食糧不足のために作らなければなりません。湿地でも土手から飛び降りて足が埋まらない田には全部作付けするやうにとの話もあり、大麦、裸麦、小麦の刈り取りの許可日を設けることもありました。また、みそ、しょうゆは自家製にしていたが、砂糖は不足しており、甘味料として水飴<sup>（4）</sup>で炊いたこともあったそうです。塩は、泥に汚れた雪のような色で、石のように固いものが配給になっており、これは岩塩<sup>（5）</sup>とよばれていました。田の畦にも豆類を植え、灰屋の屋根にもカボチャをはわせるなど、竹やぶや山すそにも無駄なく有効に増産していました。

注（1）金融恐慌 金融面に集中しておこる経済的混乱。一般には、典型的な例として、1927（昭和2）年の金融恐慌をさす。

（2）配給制度 統制された経済のもとで、一定の商品を消費者に配給する制度

（3）雑炊 戦時、直接の戦闘に加わらないで、前線の背後で支援する一般国民および国内を指す

「銃後の守り」とは、戦地へ送り出した家族や地域の人々の生活の様子を言います。召集令状しょうしゅうれいじょうを受け取ると、その家に地区の人が集まり杉の門を作り、日の丸の旗を付け、「祝出征」などの額を下げました。出征兵士そうこうかい壮行会が行われ、万歳三唱ばんざいさんしょうして兵士を見送りました。千人針は、白地の晒布さらしぬのに「武運長久」ぶうんちようきゅう(4)や「必勝」の文字が1000個の点で書かれ、1000人の女性に一人1点ずつ縫いこぶを作ってもらったもので、出征兵士に託しました。これは、お守りとして身につけていると弾が当らず、千人の真心によって出征兵士たちは千人力を発揮するという日露戦争頃からの風習とされていました。また、戦地にいるわが子、夫、友人に、心情をしたためて、日用品や食べ物等を小包にして送ったものが慰問袋いもんぶくろで、これに慰問文も入れて送っていました。勤労奉仕も日常的に行われました。ガソリンの代用こえまつに肥松の根を掘り出して松根油しょうこんゆが使われ、軍馬の飼料として干し草きょうしゆつを供出しました。また、金属も、鉄鍋・釜・寺の釣鐘つりがねまで供出するまでになっていました。

吉田には、当初吉田警察署の裏にあった宿舎の屋上ぼうくうかんしに防空監視が置かれていました。初めの頃は、在郷軍人ざいこうぐんじんによって監視されていましたが、応召等おうしょうで人員不足になり吉田町外4か村の青年学校の生徒が24時間体制で敵機ていきの来襲を監視していました。



↑ 出征軍人の見送り（吉田町福原）



↑ 慰問袋（美土里町生田）（昭和10年代か）



↑ 子供部隊（高宮町来女木）（昭和19年頃）

注 (4)武運長久 戦いにおける勝利の運命が久しく続くこと

## 7 戦時下の安芸高田の場面

### ●安芸高田内では空襲はあったのですか。

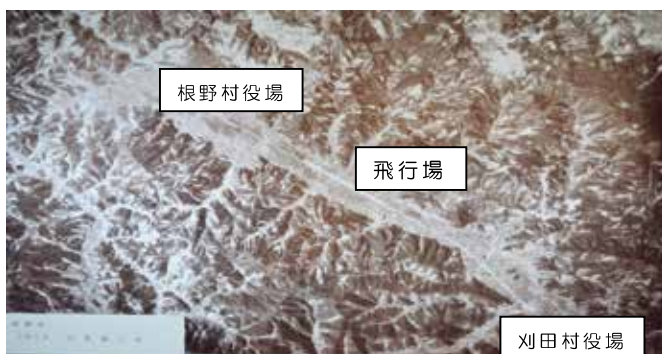


1945（昭和20）年5月5日朝5時40分、アメリカ軍機「B-29」1機が飛来し、旧船佐村字船木長谷（三次市）の鳴瀬堰堤から所木（高宮町）対岸の旧発電所に至る1キロに及ぶ江の川兩岸に3発ずつ、ほぼ2～300メートルの間隔で爆弾が投下されました。そのうち1発が民家の前庭に落ち、母屋と納屋を焼失しました。この日、たまたま里帰りをしていた長女の母子を含む家族7名が亡くなりました。アメリカ軍機による県内の空襲爆撃は広島、呉、福山に集中しており、中国山地ではこの地が唯一の被災地となりました。現在、この地はJR三江線船佐駅となっています。ホーム前に説明の立札が立っています。



### ●根野飛行場の建設はどのような様子だったのでしょうか。

1945（昭和20）年6月に、旧根野村と旧刈田村（ともに八千代町）に秘密命令が出され、「国安牧場」という名前で飛行場を建設することになっていました。当時、上根飛行場とも呼ばれていましたが、正式名は「海軍航空隊可部基地」でした。当初の建設計画は、600mの滑走路と、その誘導路及び格納庫の建設で、7月10日が完成期日に決められていました。この建設工事には、海軍先遣隊と民間徴用貨物自動車運転手と兵員760名、県北中等学校の学徒隊と、各町村に割り当てられた国民義勇隊<sup>(1)</sup>が作業にあたっていました。刈田国民学校<sup>(2)</sup>や郷野国民学校が宿舎となり、近くの民家も宿舎に割り当てられていました。本土決戦に備えての海軍特攻基地ということで、工事予定地内の民家は即座に立ち退きを申し渡されていました。飛行機は整備兵によって翼をはずし、胴体は自動車<sup>やまかけ</sup>で引いて、山蔭の秘密場所に隠されていました。また、滑走路の路面には毎月、山から木の枝を取って敷きつめ、擬装<sup>ぎそう</sup>をしていました。結局、飛行場は完成しないままに終戦を迎え、海軍も解散、兵隊も復員し、幻の飛行場で終わったのでした。



飛行場跡地全景（八千代町下根）

注(1) 国民義勇隊 太平洋戦争末期、空襲の激化と本土決戦に備えて、職場、学校を単位に国民すべてを編成するためにつくられた組織  
注(2) 国民学校 太平洋戦争中の初等普通教育機関



### ●安芸高田での学童疎開<sup>(3)</sup>はどのような暮らしだったのでしょうか。

1945（昭和20）年4月、広島市と呉市が学童疎開の対象都市に指定されました。学童疎開の対象は国民学校初等科三年以上六年までの児童として、教員も児童と共同生活をする事、身の回り品は最小限度を携行すること、疎開先での教育は疎開先の国民学校や宿舎で行うこと、疎開先での勤労奉仕を行うことなどが決められていました。旧高田郡内は呉市内の国民学校の受け入れ地域となり、受け入れた学校数は28校でした。主に寺が宿舎となり、配給の食糧だけでは不足するため、近くの農家での手伝いをして作物をもらっていました。食べていたのは、ほとんど雑炊<sup>ぞうすい</sup>で、弁当だけが麦飯でした。時々、玄米やトウモロコシ・サツマイモをふかすこともあったそうです。



### ●満州高田開拓団とは何ですか。

昭和に入って、日本は国策として満州（中国東北部）の大地に、多くの開拓団を送り込み、食糧の確保と満州防衛の戦力とすることを図っていました。旧高田郡では、丹比村<sup>たんび</sup>・吉田村<sup>えの</sup>・可愛村<sup>えの</sup>・郷野村（共に吉田町）・小田村（甲田町）を主体とし、高田郡内一円から希望者を募集し、1944（昭和19）年1月から1945（昭和20）年6月の間に、高田開拓団98戸、296名の人たちが家族を伴って満州吉林省へ渡って行きました。満州の豊かな土地は、現地の人々がそれまで荒地を開墾<sup>かいこん</sup>してきたものであり、日本政府の機関が開拓民を迎えるために現地の人々から安く強引に買い上げた土地でした。このことは、現地の人々の恨み<sup>うら</sup>を買い、敗戦と同時に悲劇を招くことになりました。

1945（昭和20）年8月15日以後、高田開拓団のいくつかは現地人の襲撃や栄養失調、伝染病などで命を落とす人が続出しました。高田開拓団の入植者296名の内、故郷に帰れた人は、56名、死亡者154名、未帰還者<sup>みきかん</sup>24名でした。



満州高田開拓団殉難の碑（郡山公園）

戦争が地域に与えた影響について調べたことや考えたことを自分の言葉でまとめてみよう。



戦争の悲惨さ、むなしさを感じます。私たちは決して忘れてはならないのです。

注(3)学童疎開 太平洋戦争末期の1944年から始まった児童を近郊農村・地方都市へ集団移動させた政策

## コラム① <sup>わさん</sup>和算の研究 <sup>みかみよしお</sup>三上義夫

明治初期、甲立小学校出身の世界を代表する数学者が誕生しました。

和算とは、日本で独自に発達した数学のことで、江戸時代に最も発展しました。算木<sup>(1)</sup>やそろばんなどの計算器具を使用した、仕事や生活に役立つ学問として存在しました。江戸時代の和算家、<sup>せきたかかず</sup>関孝和<sup>(2)</sup>は有名です。

三上義夫は1875(明治8)年に甲立村(甲田町)に誕生しました。地元の上甲立小学校(甲立小学校)で学び、和算に触れたのもこのころで、後に数学を学ぶきっかけにもなりました。東京帝国大学(東京大学)大学院に進み和算史の研究に着手した三上は、英文で日本と中国の数学史を発表し、「世界的数学史家」への大きな一歩となりました。

三上が1921(大正10)年に発表した「文化史上より見たる日本の数学」は、大きな反響を呼び、1929(昭和4)年には、東洋人で初めて国際科学史委員会の通信会員に選ばれました。戦後も研究を続け、1949(昭和24)年には、東北大学から理学博士<sup>しょうごう</sup>の称号を贈られています。

75歳で亡くなりましたが、甲立全域から寄付が集められ、甲立小学校に<sup>けんしょうひ</sup>顕彰碑が建てられました。三上の残した貴重な資料は、今日も大切に保存されています。



↑ 三上義夫  
(安芸高田市提供)

39×7の計算

	千	百	十	一
上			III	IIII
中				
下			II	

	千	百	十	一
			III	IIII
		II	I	
			II	

	千	百	十	一
			III	IIII
		II	II	III
				II

↑ 算木による計算の例

1	2	3	4	5
I	II	III	IIII	IIIII
6	7	8	9	
IIII I	IIII II	IIII III	IIII IIII	

↑ 算木による数の表し方



計算の仕組みを考えるとおもしろそうだね。  
みんなも挑戦してみよう。

注(1) 算木(さんぎ) 中国数学や和算で用いられた計算用具。縦または横に置くことで数を表した。  
注(2) 関孝和(せきたかかず) 江戸時代の和算家(数学者)。筆算による代数の計算法を発明して、和算が高等数学として発展するための基礎を作った。1642 - 1708

## コラム② 衆議院議員 ながわかんいち 名川侃市

名川侃市は1882(明治15)年坂村(向原町)に生まれました。明治法律学校を卒業し、1909(明治42)年に東京地方裁判所判事に任官されました。その後1917(大正6)年に退官し弁護士となりました。弁護士としては、甘粕あまかす事件、五私鉄疑獄事件、売勲事件<sup>(1)</sup>の弁護人を務めました。



その後政治家となり、1927(昭和2)年11月に行われた広島第1区衆議院議員補欠選挙で政友党公認候補として初当選し、以後5回連続当選を果たしました。

その政治活動は持ち前の反骨精神で、軍部には流されない強い意志を持っていたと言われていました。帝人事件<sup>(2)</sup>においては検察側の取り調べの過程に人権をふみにじるようなことがあったとして、衆議院本会議で質問を行いました。また、1940(昭和15)年のいわゆる反軍演説<sup>(3)</sup>による斎藤隆夫の議員除名問題においては、除名に反対する投票を行った7名のうちの1名でした。

1942(昭和17)年4月に実施された第21回衆議院議員総選挙(翼賛選挙)では、政友党の推薦を受けられず193票差で落選し、議席を失いましたが、当時の時代背景の中でも自分の保身を図るのではなく、己の信念を貫いた人物でした。

### 政党の解散 ～翼賛体制へ

国家総動員法(1938年)が成立し、ヨーロッパで第二次世界大戦(1939～1945年)もはじまり、日本も戦争遂行のための強力な指導体制を作ろうとする動きが高まりました。1940(昭和15)年、内閣総理大臣を総裁とする大政翼賛会が発足しました。それまでの立憲政友会や立憲民政党などが自発的に解散し、大政翼賛会に合流していき、国会は軍部の方針を追認し、支える翼賛体制となりました。

軍部に対して異を唱えることができない、だれも戦争に反対できない体制になっていったんだね。



注(1) 甘粕事件、五私鉄疑獄事件、売勲事件 いずれも軍部による弾圧や政治家による汚職事件。  
注(2) 帝人事件 1934(昭和9)年に起こった疑獄事件(政治に絡む大規模な贈収賄事件)で、斎藤実内閣総辞職のきっかけとなったが、後に起訴された者全員が無罪になり、倒閣の策謀による事件ではないかとみられている。  
注(3) 反軍演説 1940(昭和15)年に帝国議会で立憲民政党の斎藤隆夫が日中戦争に対する根本的な疑問と批判を提起した演説。これにより、斎藤は衆議院議員を除名された。これは言論弾圧である。

## 第6章 現代の安芸高田

現代の安芸高田市が発展するきっかけを探してみようよ。



### 1 戦後の復興と高度経済成長

#### ●日本の戦後の復興とともに、安芸高田はどのように変化していったのですか。

敗戦後の日本は、日本国憲法の下、民主国家として新たなスタートを切りました。復興への道のりを歩み、政治・経済・文化といったあらゆる分野において社会の仕組みが変化し、1960年代を中心に高度経済成長の時期をむかえていました。

安芸高田においては、1953（昭和28）年から1956（昭和31）年にかけて、旧高田郡内で町村合併（昭和の合併）が行われ、21町村が現在の6町と白木町（1973年に広島市と合併）になりました。こうした間、安芸高田においても農業を中心とした産業振興と大規模な公共事業がすすみ、大きな変化を見せていきました。

### 2 酪農開拓パイロット事業<sup>(1)</sup>（高宮町羽佐竹）



#### ●終戦後の農業振興をどのようにすすめていったのですか。

高宮町来原・船佐地域では終戦後、開拓事業が進んでいました。これは、従来農家が自分の所有地を開墾していったのとは異なり、開拓地の提供を受け、所有者の理解と協力のもと行われていました。入居してくる人たちの多くは農業経営に携わったことが少なく、新たに携わろうとする人々の強い意志によって行われた開拓事業であったといえます。そうした中、高宮町は1957（昭和32）年、「農村開発地域」の指定を受けてパイロット事業を開始しました。町は計画書を作成し、1960（昭和37）年、当時の農林省の指定により羽佐竹地区が「中規模開発パイロット地区」になりました。これによって、国と県による県営事業としてスタートし酪農、和牛、水稻、たばこの育成へと進んでいったのです。

現在、農業を取り巻く環境は、国内外ともに大変厳しく、ブランド化とともに地産地消などの動きの中、農業の生き残りをかけて進められています。



羽佐竹パイロット

\*注 (1)開拓パイロット事業 国主導の農業経営規模の拡大による自立経営の育成を目標としたモデル的な事業。

### 3 土師ダムの建設（八千代町土師）

#### ●土師ダムはなぜつくられたのでしょうか。

江の川水系の可愛川につくられた多目的ダムで、洪水調節、かんがい用水、上水道、工業用水道、発電用として建設されたダムで、1974（昭和49）年5月完成しました。

このダム建設によって、八千代町の全耕地の約4分の1や家屋203戸、小学校1校などが水没することになりました。現在は、水没した土師地区の歴史を残し、憩いの場としての土師ダム記念公園がつくられており、桜の名所として県内の多くの観光客を招くスポットとなっています。



土師ダム（八千代湖）

堤高50m、堤長300mのコンクリートダム。有効貯水量4,110万 $m^3$ を誇る。広島・呉地区の工業用水20万 $m^3$ 、上水道用水10万 $m^3$ の合計日量30万 $m^3$ の都市用水の供給の役割をもつ。

### 4 中国自動車道の建設

#### ●中国自動車道が果たす役割を考えてみましょう。

大阪府吹田市と山口県下関市を結ぶ高速道路で、総延長541km、県内距離は143kmの中国地方の東西を結ぶ中心道路として1983（昭和58）年に開通しました。安芸高田市においては、高宮町と美土里町を通過し、高田インターチェンジを設置しています。この高速道路は、関西と北九州を短時間で結んで、瀬戸内海沿岸部に比べ開発が遅れていた内陸部の産業開発を促進していくものと期待されました。現在、高宮工業団地も隣接してつくられています。安芸高田市への企業誘致に重要な役割を担っています。また、広島市や三次市への通勤通学での高速バスの利用など、県北部における輸送や物流に対する影響力は大きいものがあります。



←中国自動車道（高田インターチェンジ）

今後の安芸高田市のあり方にも大きな影響があります。



安芸高田の経済発展につながる事業や施設の様子を調べてみよう。



## 5 昭和38年豪雪災害・昭和47年豪雨災害



### ●「昭和38年豪雪」による大きな被害があった。



1963（昭和38）年1～2月に今までにない豪雪がありました。家屋の倒壊や交通途絶などの被害がありました。

↑当時の川根小学校・高宮中学校の様子

### ●安芸高田を襲った「昭和47年豪雨災害」とはどのような災害だったのか。



1972（昭和47）年7月9日朝から降り始めた豪雨は、13日午前9時までの4日間の総雨量として、県北東部で500mm以上に達し、三次では613.6mmを記録していました。このため三次市では市街地の大半が水没、江の川下流域では集落が壊滅かいめつしました。この時の安芸高田市（高田郡）も例外ではなく、11日午前9時までの24時間雨量は美土里町の犬伏山いぬぶしやまで235mmに達しており、各町を流れる各河川は増水し警戒水域けいかいを超えていました。（最終到達水位は、12日午前2時下土師すんだんで4m、12日午前3時30分吉田5.8m）橋は落ち、道路は破壊され、交通網は寸断し自動車による連絡は完全に断たれてしまいました。行政は対策本部を置き、不眠不休で応急処置をとるしかなかったといいます。山地にあっても思わぬ山崩れやまくずが起り、家屋を押しつぶし、負傷者を出しました。そして、尊い人命たくりゅうを濁流によって失う事態になってしまいました。この豪雨により、死者行方不明者39名にもなり、住宅被害19,208棟を始め、農地などにも大きな被害が出

ました。安芸高田市でも、死者行方不明者1名、住宅の全壊は20棟に及びました。

この集中豪雨による大災害は、後に「昭和47年豪雨災害」とよばれました。特に谷合たにあいの交通はなかなか復旧せず、長く大きなつめあとを残しました。しかし、これをきっかけとして、地域復興ふっこうへの強い意志が生まれ、住民の手による地域づくり活動がスタートしたのです。



↑高宮町川根の田草川の氾濫

豊かな自然であると同時に、恐ろしさもあるのね。



## 6 アジア競技大会広島大会・第51回国民体育大会(ひろしま国体)

- 広島はスポーツがさかんですが、安芸高田ではこれまでにどのような大きな大会が開かれたのですか。



土師ダムがある八千代湖では、これまで多くのカヌー競技が行われてきました。1993(平成5)年10月のアジアカヌー選手権大会が行われたのを皮切りに、翌1994(平成6)年10月に広島市を中心に開催された第12回アジア競技大会広島大会においてカヌー競技の会場として使われ、アジア各国の代表が熱戦を繰り広げました。さらに1996(平成8)年9月に行われた第51回国民体育大会(ひろしま国体)においてもカヌー競技の会場になりました。この国体では、地域をあげて参加都道府県の応援をするなど盛りあがりを見せました。(大会スローガンは「いのちいっぱい、咲きんさい!」)

これまでも安芸高田市で伝統的にさかんであった剣道・空手・卓球等から、今では、サンフレッチェ広島が吉田サッカー公園を拠点にしているサッカーや甲田町に拠点を置く湧永製薬ハンドボール部など、スポーツの広がりを見ることができます。ひろしま国体では、甲田町はハンドボールの開催地を引き受け、民泊で選手を受け入れました。スポーツを通じて人との関わりも広がっています。現在、個人で、また学校・地域のチームとして、年少者から高齢者まで、スポーツ観戦を含めスポーツを楽しんでいます。



↑カヌー教室(八千代湖)



↑湧永製薬ハンドボール部(湧永製薬提供)



↑サンフレッチェ広島と市民の交流

スポーツを通じて、市民が体を動かして楽しむことは良いことですね。コミュニケーションの一つと言えるでしょう。

